

授業改善プラン

1 年 教科 (英 語)

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

観 点	1 学期		2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	課題分析 (授業分析・プランの一次評価)	一次評価後の 具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて
コミュニケーション への関心・意欲・態度	○積極的に活動に取り組んでいる。 ▲書く活動への積極性がやや低い。	取り組みやすい活動・内容にする。どの習熟度の生徒でも取り組める活動にする。Hi, friends!での類似した活動を踏まえて授業を展開する。Welcome to Tokyo の活用。	○積極的に活動に取り組んでいる。 ▲書く活動への積極性は高くない。	既習事項をスパイラルに扱う工夫をしつつ、取り組みやすい活動・内容にする。どの習熟度の生徒でも取り組める活動にする。ALT と Welcome to Tokyo の活用。	
外国語表現の能力	○どうにか通じるレベルで話すことはできる。 ▲センテンスで正確に話すこと、書くことは苦手。	小テスト等により、基本的語句・文法事項の定着を図る。頭括型の表現に慣れさせる。センテンスで表現することを意識させる。Welcome to Tokyo の活用。	○文法や語彙に誤りがあるが、どうにか通じるレベルで話すことはできる。 ▲センテンスで正確に話すこと、書くことは苦手。	小テスト等や、分かるところまでさかのぼって復習することにより、基本的語句・文法事項の定着を図る。頭括型の表現に慣れさせる。ALT と Welcome to Tokyo の活用。	
外国語理解の能力	○大意を取って、聞くこと、読むことはできる。 ▲文法に則った理解や類推ではなく、単語の意味をつなげてなんとなく意味を「創作」してしまう面があり、精確に聞くこと、読むことは苦手。	小テスト等により、基本的語句・文法事項の定着を図る。文法に則った理解や類推をすることを意識させる。Welcome to Tokyo の活用。	○大意を取って、聞くこと、読むことはできる。 ▲正確に聞くこと、読むことは苦手。特に、文法を手がかりにして理解することが苦手。	小テスト等や、分かるところまでさかのぼって復習し、表現の違い等を理解することにより、基本的語句・文法事項の定着を図る。頭括型の表現に慣れさせる。Welcome to Tokyo の活用。	
言語や文化についての 知識・理解	○比較的多く、小学校で学んだ語句や表現を覚えている。 ▲言語の特性や文化的背景等については、日本のことも含めて知識・理解が十分ではない。	小テストやワークブック等により、スパイラル的に基本的語句・文法事項の定着を図る。言語に文化が表れることの理解を促す。Welcome to Tokyo の活用。	○英語と日本語との共通点・相違点を理解してきている。 ▲言語の特性や文化的背景等については、日本のことも含めて知識・理解が十分ではない。	小テストやワークブック等により、スパイラル的に基本的語句・文法事項の定着を図る。文法的感覚を身につけていく。ALT と Welcome to Tokyo の活用。	
授業改善の検証方法		授業での発問・観察、小テスト、定期考査、提出物		授業での発問、小テスト、定期考査、提出物、暗唱、面接テスト	
小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	1 学期の成果と課題	1 学期の成果を踏まえた 具体的な改善、追加事項	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	小学校外国語活動の。担当教員との情報交換、出前授業予定の確認。	体験入学が奏功し、円滑に授業をスタートできた。その流れを維持するのが課題。	小学校外国語活動の。担当教員との情報交換、出前授業予定の確認。	4～6年生の外国語活動にT2で入り授業をした。体験入学として6年生に授業をした。	

授業改善プラン

2年 教科（英語）

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

観 点	1 学期		2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	課題分析 (授業分析・プランの一次評価)	一次評価後の 具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○積極的に活動に取り組んでいる。 ▲書く活動への積極性がやや低い。 ▲コミュニケーション活動での内容の展開が貧弱になりがち。	取り組みやすい活動・内容にする。どの習熟度の生徒でも取り組める活動にする。コミュニケーションの内容の展開のポイントを身に付けさせていく。 Welcome to Tokyo の活用。	○積極的に活動に取り組んでいる。 ▲書く活動への積極性が高い。	既習事項をスパイラルに扱う工夫をしつつ、取り組みやすい活動・内容にする。どの習熟度の生徒でも取り組める活動にする。ALT と Welcome to Tokyo の活用。	
外国語表現の能力	○どうにか通じるレベルで話すことはできる。 ▲センテンスで正確に話すこと、書くことは苦手。	小テスト等により、基本的語句・文法事項の定着を図る。既習事項の活用を促し、端的に表現させる。センテンスで表現することを意識させる。 Welcome to Tokyo の活用。	○文法や語彙に誤りがあるが、どうにか通じるレベルで話すことはできる。 ▲センテンスで正確に話すこと、書くことは苦手。	小テスト等や、分かるところまでさかのぼって復習することにより、基本的語句・文法事項の定着を図る。頭括型の表現に慣れさせる。ALT と Welcome to Tokyo の活用。	
外国語理解の能力	○大意を取って、聞くこと、読むことはできる。 ▲文法に則った理解や類推ではなく、単語の意味をつなげてなんとなく意味を「創作」してしまう面があり、精確に聞くこと、読むことは苦手。	小テスト等により、基本的語句・文法事項の定着を図る。英文の構造と品詞に注意させる等、文法に則った理解や類推することを意識させる。 Welcome to Tokyo の活用。	○大意を取って、聞くこと、読むことはできる。 ▲精確に聞くこと、読むことは苦手。文法を手がかりに理解していくことが苦手。	小テスト等や、分かるところまでさかのぼって復習することにより、時制や表現の違いの理解と、基本的語句・文法事項の定着を図る。速読・精読教材の活用。頭括型の表現に慣れさせる。Welcome to Tokyo の活用。	
言語や文化についての知識・理解	○ある程度の単語力はある。 ▲文法力が不十分。言語の特性や文化的背景等についての知識・理解が十分ではない。	小テストやワークブック等により、スパイラル的に基本的語句・文法事項の定着を図る。言語に文化が表れることへの理解を促す。 Welcome to Tokyo の活用。	○英語と日本語との共通点・相違点を理解してきており、ある程度の単語力はある。 ▲文法力が不十分。言語の特性や文化的背景等についての知識・理解が十分ではない。	小テストやワークブック等により、スパイラル的に基本的語句・文法事項の定着を図る。文法的感覚を身につけていく。ALT と Welcome to Tokyo の活用。	
授業改善の検証方法		授業での発問・観察、小テスト、定期考査、提出物		授業での発問、小テスト、定期考査、提出物、暗唱、面接テスト	

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	1 学期の成果と課題	1 学期の成果を踏まえた 具体的な改善、追加事項	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分の力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性 のある指導を目指して～	小学校外国語活動の。担当教員との情報交換、出前授業予定の確認。	来年度の3年生の教科書切り替えに対応してカリキュラムを修正に着手したが、教科書が学校になく、進んでいない。	小学校外国語活動の。担当教員との情報交換、出前授業予定の確認。	4～6年生の外国語活動にT2で入り授業をした。体験入学として6年生に授業をした。	

授業改善プラン

3年教科(英語)

学力調査・定期考査・生徒の授業アンケート・授業の様子から分析して作成する。

【目的】

- 生徒の課題を分析し、適切な指導方法の工夫、改善を行う。
- 生徒、保護者に課題、改善の取り組みを明示し、学校と一体になって学力向上へ向けた取り組みを行う。

観 点	1 学期		2 学期		3 学期
	課題分析	具体的な改善プラン	課題分析 (授業分析・プランの一次評価)	一次評価後の 具体的な改善策	改善プランの評価 来年度に向けて
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	○活動への積極性が高まってきている。 ▲書く活動への積極性がやや低い。 ▲コミュニケーション活動での内容の展開が貧弱になりがち。	取り組みやすい活動・内容にする。どの習熟度の生徒でも取り組める活動にする。コミュニケーションの内容の展開のポイントを身に付けさせていく Welcome to Tokyo の活用。	○活動への積極性が高まった。 ▲書く活動への積極性が高まってきている。	既習事項をスパイラルに扱う工夫をしつつ、取り組みやすい活動・内容にする。どの習熟度の生徒でも取り組める活動にする。ALT と Welcome to Tokyo の活用。	
外国語表現の能力	○どうにか通じるレベルで話すことはできる。 ▲センテンスで正確に話すこと、書くことは苦手。	小テスト等により、基本的語句・文法事項の定着を図る。既習事項の活用を促し、端的かつ論理的に表現させる。センテンスで表現することを意識させる。 Welcome to Tokyo の活用。	○文法や語彙に誤りがあるが、どうにか通じるレベルで話すことはできる。 ▲センテンスで正確に話すこと、書くことは苦手。特に時制の使い分けが苦手。	小テスト等や、分かるところまでさかのぼって復習することにより、基本的語句・文法事項の定着を図るとともに、英語特有の表現にも慣れさせる。頭括型の表現に慣れさせる。ALT と Welcome to Tokyo の活用。	
外国語理解の能力	○大意を取って、聞くこと、読むことはできる。 ▲文法に則った理解や類推ではなく、単語の意味をつなげてなんとなく意味を「創作」してしまう面があり、精確に聞くこと、読むことは苦手。	小テスト等により、基本的語句・文法事項の定着を図る。英文の構造や品詞、変化形に注意させる等、文法に則った理解や類推をすることを意識させる。 Welcome to Tokyo の活用。	○大意を取って、聞くこと、読むことはできる。 ▲精確に聞くこと、読むことは苦手。時制の違い等、文法を手がかりに理解していくことが苦手。	小テスト等や、分かるところまでさかのぼって復習することにより、基本的語句・文法事項の定着を図る。速読・精読教材の活用しながら、動詞に着目して理解することに慣れさせる。Welcome to Tokyo の活用。	
言語や文化についての知識・理解	○単語力についてはきている。 ▲文法力が不十分。言語の特性や文化的背景等についての知識・理解が十分ではない。	小テストやワークブック等により、スパイラル的に基本的語句・文法事項の定着を図る。言語に文化が表れることの理解を促す。 Welcome to Tokyo の活用。	○英語と日本語との共通点・相違点を理解してきており、ある程度の単語力はある。 ▲文法力が不十分。言語の特性や文化的背景等についての知識・理解が十分ではない。	小テストやワークブック等により、スパイラル的に基本的語句・文法事項の定着を図る。文法的感覚を身に付けさせていく。ALT と Welcome to Tokyo の活用。	
授業改善の検証方法		授業での発問・観察、小テスト、定期考査、提出物		授業での発問、小テスト、定期考査、提出物、暗唱、面接テスト	

小中一貫教育の視点	具体的な取り組み (交流・連携等)	1 学期の成果と課題	1 学期の成果を踏まえた 具体的な改善、追加事項	2 学期までの 成果と課題	1 年間の成果と 今後の課題
自分力でたくましく 生きぬく子の育成 ～9年間の継続的な一貫性のあ る指導を目指して～	小学校外国語活動の。担当教員との情報交換、出前授業予定の確認。	来年度の3年生の教科書切り替えに対応してカリキュラムを修正に着手したが、教科書が学校になく、進んでいない。	小学校外国語活動の。担当教員との情報交換、出前授業予定の確認。	4～6年生の外国語活動に T2 で入り授業をした。体験入学として6年生に授業をした。	